

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1971300353	
法人名	医療法人社団 富士厚生会	
事業所名	グループホームあんず	
所在地	山梨県南都留郡山中湖村山中1069-3	
自己評価作成日	令和3年1月2日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設施設と一緒に研修会を受けることが出来、職員も他者との交流も図る事も学習する事も出来、個々のスキルアップを図ることが出来ています。イベント企画も近くの商業施設があることにより多種出来ていますが、コロナ過の中外食が出来ていない状況です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は東富士五湖道路山中湖ICを降りてファナック通り沿いにあり、周辺には黄色い建物で有名な精密機械工場やミネラルウォーター製造工場など工場施設が点在している。鉄筋コンクリート、平屋建ての建物で同じ敷地内に同法人の介護老人保健施設がある。法人全体での職員研修、委員会活動、災害訓練等を合同で実施して相互の協力関係を築いている。職員研修は、全職員が出席できるように計画して、職員教育の充実を図っている。利用者が住み慣れた地域でその人らしく生活できるように利用者一人ひとりを理解して、管理者と職員は日々の支援に繋げている。また、職員の仕事に対する良い評価が家族から得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度(コロナ禍以前) 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが(コロナ禍以前) 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームあんず**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(明るく、楽しく、その人らしい生活が送れる)の理念に基づき、地域の力を少しづつ取り入れながら、その人らしい生活が出来る様に支援し、日々笑顔にて生活して頂けるよう取り組んでいます。事業者理念は、1日3回の申し送り等にて共有しています。	法人の理念とは別に「明るく、楽しく、その人らしい生活が送れる」を事業所理念として取り組んでいる。理念がケアに反映されるよう、趣味や生活歴等を把握して継続できるよう支援に努めている。職員交代時の申し送りで伝えたり、毎月のカンファレンス等でも話し合い、管理者と職員は共有して実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、地域の行事や、役場主催の行事にも参加出来なかった。交流もてず。	例年実施していた、地域の敬老会、村民運動会、婦人会等の行事に参加していたがコロナ禍で中止になり、地域住民と交流する機会が途切れている。コロナ感染対策をして地域ボランティアによる音楽セラピーを月2回実施して、利用者との関わりを持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、内部研修会も毎月開催の所、対策の上の実施となりました。外部研修会は、この中での参加が出来ない状況です。本来なら、内部研修会も地域の方の参加を呼びかけていますが出来ない状況でした。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	前年度の開催も途中で中止となりました。今年度においても開催が出来ないので、施設の活動報告等は、適時役場の方に書類で報告しています。運営等に関する相談等は随時、役場と連携しています。	2か月に1回開催していた、運営推進会議の開催をコロナ禍で中止している。運営推進会議が開催出来ない為、2か月毎に活動報告等を書面にして、運営推進会議メンバーに郵送し、意見をもらうようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡は、常に取っております。必要書類の提出には、訪問して運営についてなどの話し合いをしています。	役場担当者は運営推進会議のメンバーでもあり、事業所の実情は伝えている。役場に出向いて担当者で話す機会もあり、居室の空き状況の相談や事業所に関わる事について問題がある場合には、実直に応じてもらえる関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理事長・施設長より身体拘束をしないと取り決めております。また内部研修での勉強会に職員全員参加しています。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を法人が開催し、全職員が出席して共有認識を図っている。法人の安全委員会(身体拘束を含む)が毎月あり、職員の代表が出席している。勉強会の資料は回覧し、職員間で共有している。玄関も施錠しないで開放し、見守りの中で自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケア・業務にて職員全員にて注意を払い努めています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の内部研修会は、何とか職員全員受けることが出来ました。月1回のカンファレンス内でも共有できるように心がけています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、事前に説明を行い、分からない事は、都度連絡して頂き、不安などを取り除くように努めています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームあんず**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する事などは、都度傾聴しております。家族連絡の際は、必ず近況の報告をしています。状況に応じ、適時連絡を取り意見や要望が有るなら取り入れるようにと考えています。	コロナ禍で面会制限があり、直接利用者に合えない状況にある。利用者に必要な物を家族が持参して職員に渡している。玄関での受け取りで、限られた中で家族に問いかけて聞くようにしている。リモートでの面会希望や楽しく運動させてほしい、一緒に出掛けたい等の要望があり、検討して反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別にて傾聴する機会を適時、設けています。その他にも勤務中にて職員の体調や不安などや、やりたい事など(企画)を傾聴し対応しています。	法人の施設長と年1回、管理者と年2回の面接を実施して、職員からの意見、要望を聞いている。日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、問いかけたり、聞きだしたりするようにしている。職員からの有休、希望休、勤務体制、備品購入等の要望は検討して反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ、個別面談を行い、職員の意欲向上に努めています。希望に添えるように取り組んでいます。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年は、毎月の内部研修に、全職員が参加し、個々のスキルアップに繋がっています。外部主催の研修にも適時参加していましたが、今年度は、数回の内部研修会になりました。外部研修会は、必須のみの参加となりました。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、山梨県グループホーム協会の研修会に参加して他施設の方との交流していましたが、今年度は、参加出来ませんでした。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族様より現況などの情報や要望を得るように努め、安心・納得をして頂き、サービスを開始出来る様になっています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より、ご家族様の実情や要望を傾聴し、入居時も連絡を取りながらより良い関係が築けるようにしています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ、併設される老健施設の専門職に相談・助言をしていながら対応に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒に物事をする様にし、寄り添っていけるような関係性が出来る様に支援しています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームあんず**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告は随時行い、必要な場合には、連絡を取りながら今後の支援を検討したりしています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通所の方(地元)との交流も出来ず、面会も禁止となる状況となりましたが、窓越し面会にてようやく出来るようになりましたが、地元の人たちは行きにくいとの事です。家族や知人と電話したい方は、電話の支援をしています。	馴染みの人や場所に直接出向いたり、来てもらうことがコロナ禍で困難な状況である。家族や以前住んでいた近所の人から電話がきて話したり、職員にはがき購入を頼み、手紙を書いてやり取りをしている利用者もいる。電話や手紙での連絡を取り持つ等、つながりを継続できるよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、全入居者様が参加できる事を常に提供できるように努めています。個々の性格を考慮しながら仲良く過ごせるように努めています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も相談や支援に応じています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な方に関しては、全職員にて取り組みながら支援出来るように対応しています。暮らしに必要な物は、ご家族に相談、検討し購入して頂いております。本人の要望、希望に添えるように支援しています。	入居時に利用者、家族の生活に対する意向を聞いて把握している。日頃の関わりの中で、どのように暮らしたいのか、何をしたいのか、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な利用者は、日々の行動や表情、家族から情報を得て対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、本人・ご家族様より聞き取りをしています。普段より使用の馴染みの有るものなどは、出来る限り使用して頂くようにしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや、カンファレンス等にて入居者様の現状を報告し、職員が共有する様に努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が個々に入居者様のモニタリングし、ご本人や、ご家族様の意見や要望を担当者会議や月1度のカンファで話し合い、希望に添えるようにしています。身体状況の変化時には、都度見直しをしています。	利用者、家族からの意見、要望を聞いてその人らしく暮らし続けるために必要な支援を盛り込んだ介護計画を作成している。毎月カンファレンスを行い、職員全員で意見交換やアセスメントを行っている。モニタリングに基づいて3か月又は6か月で見直し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の情報などを担当職員が提供しながら見直しをしています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームあんず**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の要望があれば医療機関の受診の支援を行っています。また併設施設の専門職に訪問して頂き、出来る範囲内にて支援しています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用・協力しながら支援しています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には、掛かりつけとなる病院にご家族様も同行して頂き、受診しています。現在は、毎月行けない状況なのでご家族様に日頃の状況を紙面にて担当の先生に渡しています。必要な時には、職員が直接説明をいたします。	入居前からのかかりつけ医又は法人の系列病院をかかりつけ医にして定期受診している。病院受診には、家族又は職員が同行している。受信結果や薬等、変化がある場合は、家族に連絡し情報を共有している。また、専門医の受診には、職員が同行して診療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々での状態の気づきや情報等を併設の老健看護士に随時伝え、相談し日常での健康管理の支援をしています。また、急変時の対応についても指導して下さる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、入院先の病院と連絡を取りながら、今後について安心出来るように家族と話し合いをしながら支援しています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居前に、ご家族様(キーパーソン)と想定した話をしています。当施設では、看取りはしない方針としています。*継続入居については、日頃より説明しております。	事業所では、重度化した場合や終末期の対応をしていない為、入居前の相談時に状態にあった他施設への紹介や代行申請が出来る事を説明している。重度化と医師が判断した場合には、家族等と話し合いの機会を持ち、意向を確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時の緊急マニュアルを元に行動するように努めています。併設老健での急変時・事故発生時の対応の研修を受講して対応出来るように学んでいます。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、施設全体の防災業者主催の訓練及び勉強会をしています。避難訓練は、単独にて実際に全入居様を交えた訓練を適時しています。地元の消防団との訓練は、中止となりました。	法人全体で年2回、防災業者の指導で初期消火、避難、救出訓練を実施している。事業所独自でも3か月に1回、火災を想定して日中と夜間想定、避難、誘導訓練を利用者と一緒に行っている。また、新人職員が入職した時にも訓練を実施し、昼夜を通じて職員全員が避難方法を身につけるようにしている。		
IV: その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が対応しています。また、研修会などで再度確認し合いながら行っています。特にトイレや入浴介助時には、さりげない声掛けにて常に気を配る様に配慮しています。	接遇研修が年度初めにあり、職員は研修したことを基に利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切にしている。トイレ誘導の声掛けや失敗した時にはさりげないケアを心がけている。居室に入る時もノックしたり声を掛けるなど、プライバシーに配慮している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームあんず**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々にあった言葉かけや接し方を全職員にて努め入居者様の素直な表現での要望や自己決定が出来るように支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや主張を大切に、希望に沿った生活が出来るように支援しています。また余暇活動が継続できるように支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を尊重し楽しめるように努め、時には選択して頂きながらの支援を心がけています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー・食材は、老健施設より頂き、盛り付けのお手伝いや食事準備・片付けなどを一緒に行っています。食事の企画を多くし、好きな献立を調査し、普段調理出来ないので企画時は調理のお手伝いをする行事をしています。皆さん食べるのが好きようです。	老健の栄養士がカロリー計算して、調理された主菜、副菜が届けられている。ご飯は、事業所で炊いている。盛り付けや食後の片付け、食器洗い等、出来る事の手伝いをしてい。行事食、お誕生日食は利用者の好みとして、昼食に用意している。男性利用者も材料を切るなど積極的に手伝い、食の楽しみになっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別食や嗜好調査を元に提供しています。毎日、食事量・水分量を確認し、栄養状態等の支援を心がけています。食事量、飲水量の低下時には好きな捕食や飲み物の提供をしています。ご家族の差入れも時にお願しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを勧めています。時には、一連の動作の確認をし、指導する支援をしています。義歯は、洗浄・消毒を実施しています。異変時には、受診の依頼もお願いしています。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、個々の排泄パターンを把握し、確認対応をしています。時に声かけ・誘導にて気持ちよく排泄できるように支援しています。また、布パンツ使用の方には、さりげなく失禁の有無を確認し現状維持を保って頂ける様にカンファなどで話合ってます。	排泄チェック表を使用し、利用者毎のパターンを把握してトイレでの支援をしている。日中、夜間ともオムツを使用している利用者はいない。下着にパットを使用している利用者もなるべく小さいものを使い肌着の感触にしている。排泄後は職員に声を掛けるようにしている。職員は排便等の確認をして体調管理にも繋げている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無や量・性状等を記録し状態の把握に努めています。水分量の確認・毎日の身体を運動にも心がけて実施しています。排便難時は、老健ナースに相談してから、主治医と検討し対応をしています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	入浴は、週2回の機会を作り、午前・午後と希望に応じ施行している。必ず1対1の対応と、湯の温度確認を2名にて行う。希望な方には、個人持ちのシャンプーを利用して頂いている。また保湿の為、施設購入の物を使用し、皮膚トラブルの早期発見に努めています。	毎日、午前、午後を通して入浴準備が出来ている。週2回の入浴を基本としているが、一方的に決めずに利用者の生活習慣や希望に合わせて入浴できるよう配慮している。入浴剤も利用者に聞いてから使用し、個々に添った入浴支援をしている。入浴時にはお湯の温度を測り、湯温チェック表に記入して安全を確認している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームあんず**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居の際には、自身の使用された寝具を使用されますように勤めております。日中の活動を増やし、気持ちよく安眠できるように心がけています。入眠難の方は、夜勤者と一緒に過ごし、落ち着いて寝れるよう支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が把握出来るように薬情を留意し、理解できるようにしています。内服介助のマニュアルを用いて、職員間にてチェックし、誤薬がないように支援しています。また、受診後の内服セットの仕方なども指導して間違えなく出来るようにしています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活していく中での家事作業を積極的に出来る環境を支援し、もしくは、個々にて出来る活動の参加を促し、張り合いが持てるように支援しています。趣味がある方は、必要な物を準備し、出来る環境を整えています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴れて気温の高い時には、利用者自ら散歩に行きたいと訴え有りますので、対応しています。認知症により気分が高揚されたり、落ち着かない場合には、職員と外へ気分転換を図るように努めています。現状、家族との外出が出来ない為、企画にてドライブしています。	お天気の時には、職員と一緒に事業所周辺を散歩している。周辺に民家がないので、住民と挨拶を交わしたりすることはない。散歩に行けない時には、玄関先に出たり敷地内を散歩して、短時間でも戸外に出る機会を作っている。コロナ禍での外出の為、事業所周辺の湖にドライブに出かけるなど、機会をつくり支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルが生じる為、職員にて管理しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、支援しています。電話の取次ぎや、年賀状などの支援をしています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・室温計を使用し、適温に保つように努めています。フロアの壁には、行事写真や季節の飾り付けをしたりしています。また、季節の食べ物(果物)を提供したりしています。	広々としたフロアを囲んで居室があり、一目で見渡すことができる。壁には行事の写真や切り絵、季節感のあるものを飾り、音や光の刺激に配慮して暮らしの場を整えている。床暖房が完備し、心地よい暖かさを感じることが出来る。フロア全体がフローリングの為、家の雰囲気が出せるように生活を感じる量のスペースも設けられている。事業所内は、コロナ感染症防止対策にも配慮して、利用者、職員マスク着用、検温、換気、消毒等行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや居間の畳フロアに腰を掛けて頂いたりしています。自室においては、自身の椅子を置いております。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具も有りますが、出来る限りご本人が使用された物を使用して頂くよう支援しています。自室には、作品や、お花を飾って頂くなどし、心地よく過ごせるように努めています。	居室も床暖房が完備している。ベット、洋服ダンス、机、洗面台が備え付けになっている。整理ダンス、テレビ、使い慣れた高級感あるイス、家族写真等馴染みの物を持ち込み、家族と一緒に配置して、自宅との環境の差をなくし居心地のよい居室になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	供用スペースには、なるべく物を置かず、動線を確保するように努めています。トイレも3か所あり状況に応じ対応出来るように支援しています。			